


なかのさくらのいせき		
中野桜野遺跡		
所在地	海老名市中野	
時代	弥生時代 V 近世	

調査概要

本調査は、中日本高速道路（なかにほんこうそくどうろ）株式会社（旧日本道路公団東京建設局厚木工事事務所）によるさがみ縦貫道路（じゅうかんだうろ）建設工事に伴う事前調査として、平成15年度から実施しています。P24～P32地点及び側道（そくどう）、分離マス部分を対象として平成17年まで調査を行い、現在出土品整理作業を行っています。

調査地点はJR社家駅の南西約1km、地形区分（ちけいくぶん）上では相模川左岸の自然堤防上（しぜんていぼうじょう）に立地します。現在は相模川沿いの新堤防（しんていぼう）及び旧堤防の内側にあたり、地形は一見して平坦ですが、周囲に比べ標高が高くなっています。

これまでの調査では、そうした微地形（びちけい）に応じて住居跡（じゅうきょあと）・墓地（ぼち）などを見つけました。

弥生時代から古墳時代にかけては、墓のま



▲古墳時代 3号住居 カマド



▲弥生～古墳時代 方形周溝墓

わりに溝がめぐる方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）や竪穴住居跡（たてあなじゅうきよあと）等が発見されています。

この竪穴住居跡の中には古墳時代中期の初期（しょき）カマドをもつものが見つかり注目されています。

弥生時代中期中葉（ちゅうよう）とおおよその時期がわかる土坑（どこう）も見つかりました。

中世では、掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもものし）や溝状遺構（みぞじょういこう）が検出（けんしゅつ）されました。

近世の遺構としては、旧堤防、溝状遺構（みぞじょういこう）、墓坑群（ぼこうぐん）、畝状遺構（うねじょういこう）が発見されています。